

各位

日本農産工業株式会社

2014年7～9月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は2014年7～9月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2014年4～6月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約1,050円値上げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 主原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし相場は、今年の作付けをほぼ平年並みの進捗で終えたことや、その後も順調な生育が確認されていることで値下がりし、現在は4ドル台半ば水準で取引されています。今後は受粉期・成熟期を迎えることで天候に左右され易い相場が続く見通しです。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場は、米国産大豆の需給が逼迫している影響を受け高値水準での取引が続いています。北米地域で新穀の収穫が始まるまでは、このまま高値で推移する見通しです。

3. 海上運賃

米国ガルフ／日本間パナマックス本船の運賃は、おおむねトン当たり40ドル台後半での取引となっています。新造船の投入が続いていることで期近の大型ばら積み船の需給は緩んでおり、北米地域からの穀物輸出が本格化する秋頃までは現行水準が続くものと見られます。

4. 外国為替

直近のドル／円相場は、米国の利上げ期待で日米金利差が拡大したことから1ドル=103円台の水準まで円安が進みましたが、その後はウクライナ情勢が緊迫化したことでリスク回避の円買いの動きが見られたこともあり、現在は1ドル=102円台付近での取引となっています。